

の指を差出せるマリアの指とに僧の視線が落ち  
兩側の使徒中殊に右側の婦人連の顔が如何にも  
よく出来てゐる。伊國の都會で往來で屢見受け  
るやうな少娘の顔である。四人何れもあどけな  
い顔をして或は指輪を眺め或はマリアの顔を凝  
視してゐる。抑も伊太利の各地にて見る可き聖  
母の顔が畫家によつて各異り如何にも少女らし  
いのから順次に三十五六歳とも覺しきまで年齢  
の差がある。丸ボチャの美から面長の美に至る  
まで形體を異にし理性に勝つたのやら純無垢の  
やら種々様々である。餘りに肉づきよきは宗教  
味を減じ餘りに面瘠せるは人間界を離れ過ぎ色  
形共に批評の言を評さざるものを求むるは誰か  
の讃辭の如くドレスデンの聖母像 (Sistine Ma-  
donna) である。ブレラの像は何と云はうか、  
Primipara の顔をしてゐる。同じくブレラの展  
覽場にあるベルナルデオ・レイニ (Bernadino  
Luini) の聖母の顔の方が處女で娘に近う。

吾々はミランを發足點にし繪畫行脚を試みな  
ければならぬ。所謂文藝復興期の美術の研究に

進み入らねばならぬ。希臘に發達した藝術を模  
倣した羅馬人が次第次第に形式に流れ行詰つた  
結果豊潤性を繪畫に案出したのだと云はゞそれ  
までであるが、藝術家の理想をマリアに求めん  
とする時肉體美と精神美との調和を聖母の顔と  
指とに求めなければならぬ。マリアの像が顔  
面ばかりでなく指先まで描かれてゐる時この兩  
者を對比してそのモデルを想到する。所謂職業  
婦人の指、女流體育家の指、など悉く落第であ  
る。ブレラの聖母の指、天使の指、使徒の指等  
丈けを集めて見るのも面白いと不圖思つたのは  
このブレラの指輪を受ける聖母の指の畫である

## 新著紹介

### ○日本中世史の研究 文學博士 原勝郎著

昭和四年十一月同文館發行 定價七圓八十錢

恩師文學博士原勝郎先生から、我々は西洋近世史及史學研  
究法を教はつた、先生の指導は、實に秋霜烈日の慨ある澁淵  
たるものであつて、一度び先生に怒鳴られると、終生忘るべ  
からざる印象をうける、とても同じ教室の中に立つて居れな

い、他の見る目も、ハラハラする所まで進む。叱つて置いて一度廊下へ出た先生が、も一度扉を排してつかつかとやつてくると、雷の落ち方が今一層猛烈を極める。筆者も二三回はさうした洗禮をうけた。しかしそれ程きつい先生も、實は情はこまやかであるから、事後光風舞月まことに男らしい気分は感心させる、故に叱られた、甲乙誰もが先生を悪くはいはぬあまり早く逝かれたので惜しい惜しいと思うてはや數年の今日になつた。

門下のもの共は、先生がなくなれたから、相談つて遺稿を整理し、さきに世界大戦史をだしたが、今度はこの日本中世史が世に出たのである。菊版凡一千二百頁誠に堂々たる大冊子として出版された、近頃に於て、日本史學界に於ける一大著述たりと云ふに吝ならぬものである。

本書稿を果むること凡そ三篇四十二章、その第一篇は明治三十八年に單行本になつて出で、洛陽の紙價を高からしめた日本中世史を収めてゐる、我々は本篇を讀んで、第一によくもまあこんな細麗たる美文がかけたものだと思ひするのである程、先生の「凝り性」が顯はれてゐる。先生の特に力を致された所は、時代の文化、世の移りかはり、世態の進みといふやうなことを、微を穿ち、細を果めて明快ならしめんとしられた點である。しかもよくこれに成功して、讀むものをし

て一讀巻をおく能はざらしめるのである。  
蓋し先生は資料を集めるといふよりも、資料を生かして使うことの名人であつた、机上の空論をさけて生地實體の世相を詳説せんとしられた、故に自ら先の史論には當時の地理的

事情といふものを極めて重要な因子として取扱はれた。この點に於て我々は先生に教へらるゝことが多い。本書中でも、「鎌倉時代の布教と當時の交通」「足利時代に於ける堺港」の如き、その命題からして既に歴史地理學の領分に入るのであるが「都鄙の文藝」「東山時代に於ける「精神の生活」又は「世の替り目と京都」のごとき金玉にも比すべき名文は、誠に從來の史家と類を異にし、倫を絶した見方の標本を示めされたものであつて、人文地理學者の學ぶべき所の多い論文である「日本史上の奥州」「歌謡考」「貢院の春」のごとき、いづれも人文地理の見解とみてよいものであらう。

最後に日本文化の過程、日本書紀紀事考のごときものは勿論専門歴史家の壇場であるけれども、日本の人文地理を論ぜんとする程の人ならば、いづれも一應はこれを心得ておかねばならぬ數多の教訓をもつてゐると考へる。予は本書を閲して在りし日の先生の面影を思ひ出で、叱られたことや、笑はれたことを思ひだして、停徊止む能はざるものがある。敢て本誌の餘白を汚して本書の出版を世に紹介する所以である(藤田)

## 雜 報

### ○備中成羽の植物化石層

横山博士の研究に始つた成羽の植物化石層は同博士によつて Pseudomonoceras 砂岩の上にあつて Rhætic 時代であると考へられてゐたが、近來